

学 園 報

No.23

富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/> 富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>
 富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市瀬海寺水口444
 TEL / 076-436-5139
 FAX / 076-436-5444

富山国際学園の明日へ

(1)「人生は期待の上に成立つ」(三木清)。「明日は必ず来る。しかし昨日とは違う」(ドラッカー)。富山国際学園の皆さん。大自然の朝、陽は常に東に昇る。しかし我が学園の明日の陽は、我々の日々の努力なしには、明るく昇ることはない。

(2)富山国際大学はこの4月、大学の存廃を賭ける改革の一環として国際教養学部と地域学部を統合・再編し、現代社会学部を設置しました。(a)組織改革にあたり、教育の重点を「教養」から「実学」重視に大きく転換しました。(b)さらに少子化・全入時代を背景に、学生の質の多様化の現実に対応するべく「アカデミック・アドバイザー制度」(担任制)を導入し、学生生活全般にわたり、きめ細かく指導につとめます。(c)「キャリア支援センター」は19年度、就職率99%を達成。(d)「国際交流センター」はタイ国「フーイースタン大学」との学術交流協定を締結し、13校目の「国際仲間」が誕生しました。

(3)次世代を担う子ども育成は、我国の最重要課題。本学園は、短大の教育資源・教育エネルギーの多年の蓄積を基盤に、来年度に子ども育成学部を開設します。国際大学の新しい出発としてその「総合教育力」の格段の強化をめざし、準備室はご想像を超える膨大な仕事量を頑張ってこなしてきました。なおこの新学部が、わが短大の発展形態の一翼でもあることは、申すまでもありません。

(4)富山短期大学はさらに地域への貢献につとめ、(a)19年度に採択された「地域をキャンパスとした人間力向上の取り組み」に対して「ボランティア・地域活動センター」を設置、各学科の特色を生かした活動を企画、実践を始めました。(b)少子化の中、学生確保に向けてオープンキャンパスをワイド化。(c)他方、運動部も全国大会で活躍(女子野球、バドミントン、バスケットボール等)。(d)専攻科食物栄養

専攻はたゆまず教育力と社会的信用を蓄え、開設5年目に初の定員確保を達成しました。(e)県介護福祉士養成校協会・会長校として県内各校をリードし、北日本新聞「夕陽を織る」連載など、全国的

アピールにも努力中。(f)呉羽キャンパス内の「子ども育成学部開設計画」は順調に進み、新校舎建設も進捗中。短大、高校とのキャンパス内諸課題は避けられず、その調整に努力しています。

(5)国際大学付属高校は、継続指定されたSELHIを主柱に、教育力を強化してきました。この英語科の手法を他教科でも取入れるよう研究中。(a)若手教員を中心に、教育内容の向上を目指す「ワーキンググループ」が将来へ向けて活動を始めたのもポテンシャル上昇の証拠と思う。(b)運動部は、県の秋季大会でテニスは団体男子優勝、女子準優勝。サッカーは県T1リーグ優勝。文化部は、新聞・放送両部とも全国大会に入賞しました。

(6)みどり野幼稚園は、地域活動をますます強化しています。「地元獅子舞」の幼稚園訪問、園児とその家族の「子どもまつり」、「父親の会・遊び大会」等、楽しく力強く、保護者と共に地域社会との共存につとめています。

(7)社会福祉法人富山国際学園福祉会・にながわ保育園は、4月に4回目の入園式を行いました。わが短大への保護者・地元の信頼は厚く、入園希望も年々増加。「短大との連携」も、公開講座に加えて園の保育士と学科教員による実践的共同研究が、積み重ねられています。

学園の皆さん。「我々」と日本の明日へ向けて、力を合せて前進しようではありませんか！



富山国際学園理事長
金岡 祐一

CONTENTS

- 富山国際学園の明日へ
富山国際学園理事長 金岡 祐一……1
- 特集
富山国際大学
現代社会学部では「グローバル社会
に対応できる基礎力・実践力を重視」
現代社会学部長 北野 孝一……2
- ・富山国際大学の価値を語ろう
富山商工会議所理事・事務局長 宮崎 公順……3

・現代社会学部への期待

- 富山国際大学後援会長 葛野 洋一……3
- 富山国際学園第1回FD・SD研修会……4
- ビジネスマン・イブニングセミナー……4
- 平成20年度部門別学生・生徒・園児数等……5
- 平成19年度卒業生進路状況……5
- 平成19年度決算及び財務の状況……6～7
- 学園NEWS……8

現代社会学部では“グローバル社会に 対応できる基礎力・実践力を重視”

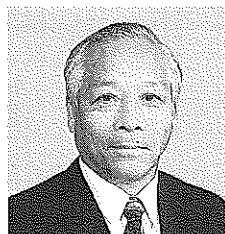
進化し続ける世界の中で、時代は、グローバル社会（あらゆる面で、地域といえども今や世界と密接に結びつき、地域の問題は世界の問題、世界の問題は地域の問題として捉える視点）を迎えています。富山国際大学は、社会のニーズが、より実践的（実務・実学的）な即戦力を求めていることや、職に対して専門的な教育を求める学生の要望も考えて、地域学部と国際教養学部を統合し、「現代社会学部」として平成20年4月発足しました。

現代社会学部は人や企業、地域社会が求める、激しい変化・進化への新しいニーズに対応するために、地域社会にとって無くてはならない“知の拠点”としての存在であり続けたいと考えています。そのため地元産業界や富山市と緊密に連携し、地域社会そのものを生きた教育の場と捉え色々な活動を積極的に展開して行きます。4年制大学ならではの教養教育（地域づくり、国際交流、外国語の各科目を学部共通科目として設置）や自ら生きる力「人間力」を養うキャリア支援教育もカリキュラムに取り入れて、今まで長年に渡って培った多様性と国際性を踏まえた実践的な教育をベースに、地域づくりと地域の未来づくりのキーとなる「観光」「環境デザイン」「経営情報」の3専攻を設置しました。『これからの21世紀を支える、国際的センスを持ち、地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材の育成』を教育目標に掲げ、学生、教職員一丸となって同窓会や地域の企業・自治体・社会と密接に連携して力強く前進していきます。



東黒牧キャンパス本部棟全景

観光専攻では、21世紀のわが国・県の重要な政策の一つである観光立国、観光立県構想に迎え、国際・地域観光の担い手となる人材を育成します。



現代社会学部長

北野孝一

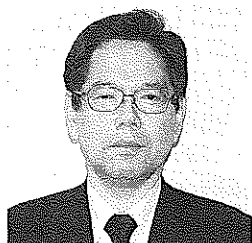
環境デザイン専攻では、21世紀は広義の環境（自然環境、資源・エネルギー、人口、食料、

高齢化など）は「地球的視点で考えて、地域的に行動する」ことをベースにおいて、「自然・人・生き物」が共生する持続的な循環型社会をデザインする人材を育成します。

経営情報専攻では、ITが進化し、“いつでも、どこでも、何でも、誰でも”というように、人と人、人とモノ、モノとモノが繋がる社会が形成される21世紀の「ユビキタス社会」で中心的な役割を担える人材を育成します。現状の社会システムをそのままにして、一部をコンピュータ化するのではなく、トータルなシステムとして設計し直す必要があります。ITによる社会設計を行ってユビキタス社会を創り出す情報アーキテクトを目指す人材を育成します。

現代社会学部ではアカデミック・アドバイザー制度など新しい取組も順調にスタートしております。外国語教育の充実・北東アジア地域からの留学生の受け入れも増加傾向にあり、これから大きく発展する可能性のある環日本海地域との交流を促進し、日本語・日本事情などの教育の更なる強化も図っていきます。就職は100%を実現すると共に、ニートやフリーターをつくらない教育をします。地域社会に対しては時代が要請するテーマでの公開講座・シンポジウムなどを継続して実施し、地域に無くてはならない大学を目指しています。

宮崎 公順



富山国際大学の価値を語ろう

富山（県）には、3千メートル級の山々が連なる立山連峰の景観や立山黒部アルペンルート、美味しい米や水、お酒、ブリやホタルイカ等のほかにも、売薬等に起源を有する各種の高い産業集積など、様々な価値や価値資源があります。

私たち自身が、それらに気づき、郷土に愛着と誇りを持ち、「富山の魅力は？」と聞かれたら自信を持ってその良さを表明すべきです。

当所は、5年余りに迫った北陸新幹線の開業を1つのチャンスと捉え、富山市の様々な価値や価値資源に気づき、語り、共有し、それらを外に向かって情報発信し、足元のできることから行動しようという「富山市価値創造プロジェクト」を平成14年から進めており、「ポスターの街・とやま」や「昆布メ研究会」などいくつかの個別プロジェクトの実践にも取り組んでいます。

富山国際大学の学生の皆さんは、「大学の魅力、学生の質は？」と問われた場合、自信を持って答えています。

富山国際大学後援会長

葛野 洋一



現代社会学部への期待

平成20年度、富山国際大学において改組・再編があり現代社会学部が設置されました。この学部には観光、環境デザイン、及び経営情報の3つの専攻があります。後援会長としてそれぞれの専攻に対し次のような点に注目します。

まず観光についてですが、私には日本における富山県と、世界における日本は相似形のように見えます。石川県の金沢や能登、岐阜県の高山に比べ富山県は知名度も低く人気もありません。同様に日本を訪れる外国人の数と国外の観光地に出かける日本人の数は極端に違います。富山県も日本も決して観光資源に恵まれていないわけではありません。何故富山県と日本は人気がないのかを考察し、富山県が観光立県となり、日本が世界中から多くの観光客が訪れる国となることを期待します。

次に環境問題ですが、産業革命以後私たちはより便利で快適な生活を求めてきました。自動車や飛行機、電気冷蔵庫や洗濯機、道路整備やダム建設、テレビ、

すか。卒業後の進路を今から考えていますか。

今年4月に、富山国際大学は学部を現代社会学部に改組再編され、実務・実学重視型にシフトされました。富山という地域に視点を据え、産業界や企業などから期待される即戦力の人材の育成と輩出という大学が持つ大きな役割を果たそうとするもので、評価したいと思います。

当所にとっても、富山の地域経済を担っていく人材の育成やキャリア教育の支援は重要な事業活動の1つであり、今後とも、互いに連携してその課題に取り組んでいきたいと考えます。なお、当所は、簿記をはじめとする各種資格講座・検定試験および経営に関する講習・講演会などを適時に開催しておりますので、これらを受講・受験することで資格取得と高い実務能力を目指す国際大生のお手伝いができるものと思います。

少子高齢化が進む中で、富山国際大学がその「価値」を輝かせ、地域社会から評価され、信頼される大学となるよう期待いたします。

パソコンや携帯電話等々。しかし科学技術の進歩は副作用として自然を破壊してきました。私たち人間は本質的には地球上の一生物にすぎず、自然界のなかでしか生きられないと感じています。便利で快適な生活と自然界の一員である人間はどのように調和すればよいと考えてください。

最後に経営情報に関してですが、今まさに経済は激動期です。アメリカ発の世界同時不況に突入しています。1929年の世界大恐慌に匹敵するかもしれません。歴史的には、その後世界に戦争が始まり、広島やアウシュビッツで悲劇がおきました。当然私たちは歴史に学ばなければなりません。現在の不況を如何に乗り越えるか、毎日毎日が勉強だと思えます。

以上のようなことに注目していますが、3つの専攻とも私たちの生活上、身近で興味のつきない問題ばかりです。教員および学生の皆様が諸問題に対し積極的に取り組まれることを期待します。

富山国際学園第1回FD・SD研修会 「今日の私学経営と教職員の協働」開催

9月19日午後、富山国際大学441教室において第1回富山国際学園FD・SD研修会が開催されました。平成20年4月より全ての大学・短大に教員のFDの実施が義務化され、また職員のSDの重要性が指摘されている状況の下で実施されました。「今日の私学経営と教職員の協働」をテーマに実施された今回の研修会には、富山国際大学と富山短期大学の教職員の約85%にあたる102名が参加しました。

金岡理事長・短期大学学長の開会挨拶の後、水間英光大学入試センター監事（前早稲田大学副総長、富山県出身）の基調講演がありました。水間氏は大学が競争環境の中で生き残るための課題と実践について、早稲田大学職員としての長年の経験をもとに、説得力ある話をされました。特に、「大学には知的営みを行う非営利組織にふさわしい経営と活動が求められている」「競争環境の下で「総力戦」が必要となっており、教職員協働が重要になっている」「生き残るためには変化し続ける必要がある」などを強調されました。最後に、「東アジア地域との連携のためのコンソーシアムの形成を」と故郷富山県の大学への期待を述べられました。

第2部では、大学から「学生確保活動での教職員協働」（小比賀誠企画課長）、短期大学から「学生支援G

Pでの教職員協働」（大門信吾学生部次長）の2件の取組報告がありました。これまでの取組の経験から、

小比賀課長は「教職員の意識ベクトルを揃えた結束ある行動が必要」、大門次長は「企画力や文章処理能力などをアップし、教職員の協力体制が必要」などを強調しました。その後、講演・報告者と参加者を交えた総合討論や、活発な質疑討論がなされ、充実した研修会となりました。最後に、大学の田中学長の開会挨拶で終了しました。

学園内の教員と職員一人ひとりの意識改革と能力アップと共に、教員と職員が互いに本音で話し合える場をつくり、相互理解を深めて連帯感や一体感の醸成に努めて、教職員集団としての資質向上を図る必要性が強く感じられました。今回の成果を学園内で共有し、今後ともこうしたFD・SD研修会を続ける必要があります。



ビジネスマン・イブニングセミナー



で開催しました。

仕事帰りのビジネスマンが受講しやすい時間帯に配慮し午後6時半より開講、富山（高岡法科大学は高岡）市内中心部に会場を設け、毎週1回、計5回の授業を1講座とし、授業形式は少人数のゼミ形式で行いました。本学教員に加え毎回ゲストスピーカーをお迎えし、それぞれの業界の現状をお話いただき、適切なアドバイスをいただきました。

以下、簡単に各講座での講義内容をご紹介します。

1. 販路開拓講座

今後、食品業界への参入を考えておられる企業を対象に、食品業界の主な業態チャネルを取り上げ、各業態の特徴や課題等を分析しどのような対応を考えておられるか検討しました。

2. インターネット販売講座

インターネット販売を主要なチャネルとして考えて

平成20年度より富山県のご支援を受け、本学と高岡法科大学主催の県内企業ビジネスマンを対象にした講座を、6月初旬から11月初旬にかけ

おられる企業を対象に、効果的なインターネット販売チャネルの構築法について検討しました。

3. 若手経営者養成講座

中小企業の若手経営者の方を対象に、経営者の資質や役割、リーダーシップ等について検討しました。

4. 営業力向上講座

中小企業の若手営業マンの方を対象に営業力向上のための戦略・戦術について検討しました。

各講座の受講生が、現在仕事上抱えていらっしゃる問題をご質問下さり、毎回真剣かつ熱気あふれる授業となりました。インターネット販売講座を受講された方のなかで、講座でのアドバイスを早速取り入れ自社のホームページを改善された方もいらっしゃいました。受講生はそれぞれ異なる業種の仕事をなさっている方同士ですので、名刺交換からはじまり一種の「異業種交流会」の様相も呈しておりました。

本セミナーはビジネスマンだけに対象を限定した初めての試みでした。その点、運営上の不安もありましたが、講座修了後のアンケートではおおむね「よかった」とのご意見をいただき安堵いたしました。

足りない点を反省し来年度の講座にいかしたいと考えています。

◇ 平成20年度部門別学生・生徒・園児数等

平成20年5月1日現在（単位：人）

部 門	学部・学科名等	収容定員 (A)	1 年	2 年	3 年	4 年	合計 (B)	定員充足率(%) (B / A)	備 考
大 学	現代社会学部	120	132				132	110.0	
	国際教養学部	390	0	39	64	66	169	43.3	
	地域学部	380	1	81	92	107	281	73.9	
	人文社会学部(募集停止)	—				2	2	—	
	小 計	890	133	120	156	173	582	65.3	
短 大	食物栄養学科	160	91	82			173	108.1	
	幼児教育学科	160	96	97			193	120.6	
	経営情報学科	180	96	122			218	121.1	
	福祉学科	160	60	83			143	89.3	
	専攻科食物栄養専攻	30	14	12			26	86.6	
	小 計	690	357	396			753	109.1	
高 校	全日制普通科	735	190	218	156		564	76.7	
幼稚園		84	3 歳児 26	4 歳児 36	5 歳児 36		98	116.6	
総 計		2,399	706	770	348	173	1,997	83.2	

平成19年度卒業生進路状況

大 学

平成19年度卒業生（第15期生）の就職決定率は99.2%でした。業種別就職状況は卸・小売業が30.9%、サービス業が30.9%、製造業が22.8%と、上位3業種で84.6%となっており、富山県内企業に就職した卒業生は69.9%となっています。また、進学先として富山大学大学院（2名）等があります。

平成20年5月31日現在（単位：人）

学 部	学 生 数	就職希望者数	就職決定者数	決定率 (%)	進学者数
国 際 教 養 (人文社会含む)	50	46	46	100.0	2
地 域	87	78	77	98.7	5
合 計	137	124	123	99.2	7

短 大

平成19年度卒業生の進路状況は好調だったといってよいでしょう。まず、求人が堅調でした。特に栄養士関係が約50%増で、保育士、介護福祉士、一般企業も約20%増となり、学生は有利に就職活動を進めることができました。結果として、就職決定率は食物栄養、幼児教育、福祉学科で100%、経営情報学科で97.2%、全体で99.1%となりました。四大編入学では富山大、埼玉県立大等々、充実した内容でした。

平成20年5月31日現在（単位：人）

学 科	学 生 数	就職希望者数	就職決定者数	決定率 (%)	進学者数
食 物 栄 養	90	71	71	100.0	15
幼 児 教 育	101	99	99	100.0	0
経 営 情 報	117	106	103	97.2	8
福 祉	75	70	70	100.0	5
合 計	383	346	343	99.1	28
専 攻 科 食物栄養専攻	7	7	7	100.0	—

高 校

富山国際大学・富山短期大学への併設校進学者は進学者の26%にのぼります。その他の進学先では、富山大学、早稲田大学、上智大学、法政大学、立命館大学、関西学院大学などの大学。また、4年連続就職決定率100%を達成しました。有名私大と短期大学への進学者の増加が今春の特徴です。

平成20年5月31日現在（単位：人）

大 学	入学者数	合格者数	短 大	入学者数	合格者数	そ の 他	入学者数	合格者数	卒業生数
富山国際大学	10	17	富山短期大学	29	30	専修・各種学校	34	36	185
国 公 立 大 学	4	8	国 公 立 短 大	1	2	就 職	24		
他の私立大学	61	107	他の私立短大	10	13	そ の 他	11		
海 外 の 大 学	0	1							
計	75	133	計	40	45	計	58	60	

平成19年度 決算及び財務の状況

平成19年度決算は、去る5月29日開催の評議員会・理事会において承認されました。決算の概要は、消費収支計算書（1会計年度の消費収入と消費支出を明らかにして、その均衡状態を表すもの）において、消費収入の部で帰属収入合計が2,345百万円（対前年度比124百万円減・5.0%減）、消費支出の部で消費支出合計が2,482百万円（同26百万円増・1.1%増）、基本金組入額合計が350百万円（同223百万円増・175.6%増）で、消費支出超過額（いわゆる赤字）は487百万円となりました。この結果、平成18年度繰越消費収入超過額345百万円から、この平成19年度消費支出超過額を差し引いた142百万円が平成20年度への繰越消費支出超過額（累積赤字）となりました。

収入の主なものは、学生生徒納付金が大学及び短大の在学者数の減により1,701百万円（対前年度比63百万円減・3.6%減）、手数料が短大及び高校の志願者数の減により32百万円（同3百万円減・8.6%減）、補助金が大学国際教養学部が補助対象外学部となったこと等により436百万円（同52百万円減・10.7%減）となりました。

一方、支出の主なものは、人件費では退職金の減などにより1,645百万円（対前年度比13百万円減・0.8%減）、教育研究経費が大学キャリア支援センター設置経費及び短大ボランティア・地域活動センター設置経費の増などにより695百万円（同20百万円増・3.0%増）、管理経費が大学現代社会学部設置経費の増などにより124百万円（同12百万円増・10.7%増）となりました。

大幅な赤字決算額487百万円となった要因としては、大学子ども育成学部棟建設に伴う基本金組入額が増加

したことも大きな要因ですが、学園の収入の90%以上を占める学生生徒納付金と補助金が大幅に減少した一方で、教育研究経費及び管理経費が増加するという収支状況の悪化が要因となっています。学生生徒数の減少は、学園の収入源に大きな影響を与えるだけでなく、学校の本質である教育活動にも支障をきたす恐れがあります。また、人件費については、前年度と同様に雇用形態の見直しや退職者の一部不補充などにより若干の抑制傾向にはありますが、帰属収入が減となっているため、依然として人件費比率（帰属収入に占める人件費の割合）は高くなっており、学園全体の財務状況としては、極めて厳しい状況がさらに悪化傾向であると言えます。

資金収支計算書（1会計年度のすべての資金の収入と支出を明らかにし、資金の動きを表すもの）においては、平成19年度の収支状況を資金面の流れで見ると、収入額は平成20年度生の前受金や平成19年度末の未収入金等も含めて4,314百万円（対前年度比1,632百万円増・60.9%増）となり、前年度から繰り越した829百万円（同46百万円増・5.9%増）を加えると、収入合計は5,143百万円（同1,678百万円増・48.4%増）となりました。

一方、支出額は人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等利息支出、借入金等返済支出、施設設備関係支出などで3,214百万円（同578百万円増・21.9%増）となり、差し引き1,929百万円（同1,100百万円増・132.7%増）が翌年度への繰越支払資金となりました。この繰越支払資金には、子ども育成学部棟の建築費の平成20年度支払分も含まれているため、前年

消費収支計算書

平成19年4月1日から
平成20年3月31日まで

(単位：百万円)

	19年度予算	19年度決算 ①	前年度決算 ②	差 異 ①-②	
消費収入の部	学生生徒納付金	1,692	1,701	1,764	△63
	手数料	31	32	35	△3
	寄付金	3	8	10	△2
	補助金	405	436	488	△52
	資産運用収入	34	63	34	29
	資産売却差額	1	0	1	△1
	事業収入	13	12	8	4
	雑収入	82	93	129	△36
	帰属収入合計	2,261	2,345	2,469	△124
	基本金組入額	△418	△350	△127	△223
消費収入の部合計	1,843	1,995	2,342	△347	
消費支出の部	人件費	1,665	1,645	1,658	△13
	教育研究経費	769	695	675	20
	管理経費	138	124	112	12
	借入金等利息	8	8	10	△2
	資産処分差額	11	10	1	9
	予備費	14			
	消費支出の部合計	2,605	2,482	2,456	26
	消費収入支出超過額	△762	△487	△114	△373
	前年度繰越消費収入超過額	345	345	459	△114
	翌年度繰越消費収入支出超過額	△417	△142	345	△487

資金収支計算書

平成19年4月1日から
平成20年3月31日まで

(単位：百万円)

	19年度予算	19年度決算 ①	前年度決算 ②	差異 ①-②	
収入の部	学生生徒納付金収入	1,692	1,701	1,764	△63
	手数料収入	31	32	35	△3
	寄付金収入	3	3	6	△3
	補助金収入	405	436	488	△52
	資産運用収入	34	63	34	29
	資産売却収入	1	0	1	△1
	事業収入	13	12	8	4
	雑収入	82	89	125	△36
	借入金等収入	5	5	0	5
	前受金収入	408	381	429	△48
支出の部	その他の収入	651	2,107	362	1,745
	資金収入調整勘定	△454	△515	△570	55
	当年度収入合計	2,871	4,314	2,682	1,632
	前年度繰越支払資金	829	829	783	46
	収入の部合計	3,700	5,143	3,465	1,678
	人件費支出	1,663	1,662	1,672	△20
	教育研究経費支出	513	440	404	36
	管理経費支出	134	120	108	12
	借入金等利息支出	8	8	10	△2
	借入金等返済支出	29	29	28	1
資金の部	施設関係支出	329	321	23	298
	設備関係支出	57	55	35	20
	資産運用支出	169	532	389	143
	その他の支出	175	177	135	42
	予備費	15			
	資金支出調整勘定	△91	△120	△168	48
	当年度支出合計	2,991	3,214	2,636	578
	次年度繰越支払資金	709	1,929	829	1,100
	支出の部合計	3,700	5,143	3,465	1,678

度に比して大幅な増額となっています。

貸借対照表(年度末における資産、負債、正味財産(基本金、消費収支差額など)の状態を表すもの)において、学園の財政状態を見ると、平成19年度末現在の資産総額は13,067百万円で、その内訳は有形固定資産(土地、建物、備品など)6,033百万円、その他の固定資産(特定資産、引当資産など)5,006百万円、流動資産(現金預金、未収入金など)2,028百万円となりました。

一方、負債総額は1,463百万円で、その内訳は固定負債(長期借入金、退職給与引当金)890百万円、流動負債(短期借入金、未払金、前受金など)573百万円となりました。

また、基本金は11,747百万円で、その内訳は第1号基本金(設立当初に取得した固定資産並びにその後新たに取得した固定資産の自己資金による支払済額)が10,938百万円、第2号基本金(将来取得する固定資産の取得に充てる金銭等の資産額)が600百万円、第3号基本金(基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭等の資産額(奨学金基金など))が13百万円、第4号基本金(恒常的に保持すべき資金額(資金的な消費支出の1ヶ月分に相当する運転資金))が196百万円となりました。

これにより、翌年度繰越消費支出超過額は143百万円となりました。

学校別収支の状況を見ると、大学は大幅な支出超過が続いており、その結果、他の各校の財務状況を圧迫し、学園全体としての財務状況は年々厳しさを増しています。大学においては、改組再編による学生の安定的確保が急務となっており、慢性的な収入不足体質から早急に脱却すべく不断の努力が必要です。

また、大学以外の各校においても、校舎老朽化対策が急務であり、その財源確保のためには、単年度の収

支に一喜一憂せずに、中長期計画的計画のもとに、安定的に収支均衡を確保できるよう、学生生徒の確保や競争的外部資金の積極的獲得に全力を尽くさなければなりません。これは、学園において、唯一収入超過の続いている短大においても例外ではありません。

以上のように、学園は少子高齢化の厳しい環境下にあっても、安定的な質の高い学生生徒の確保と教育の質を維持向上する経営が求められるという極めて厳しい課題を与えられています。しかしながら、この難題をクリアしない限り、学園に明るい未来は拓けません。全教職員はもう一度原点に戻って、学園の存在意義や存在価値について考え、そして積極的に行動し、地域に根ざした総合学園として、地域社会の期待に応えられるよう取り組まなければなりません。

貸借対照表

平成20年3月31日

(単位:百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部			
固定資産	11,039	12,357	△1,318
有形固定資産	6,033	5,918	115
その他の固定資産	5,006	6,439	△1,433
流動資産	2,028	975	1,053
資産の部合計	13,067	13,332	△265
負債の部			
固定負債	890	923	△33
流動負債	573	668	△95
負債の部合計	1,463	1,591	△128
基本金の部			
基本金の部合計	11,747	11,396	351
消費収支差額の部			
消費収支差額の部合計	△143	345	△488
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	13,067	13,332	△265

消費収支決算内訳表

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	学園本部	大 学	短 大	高 校	幼稚園	合 計
消費収入の部						
学生生徒等納付金	0	592,530	812,028	269,931	26,614	1,701,103
授業料	0	328,810	397,810	125,568	20,009	872,197
入学金	0	36,425	105,250	40,920	1,170	183,765
実験実習料	0	19,045	54,568	0	0	73,613
施設設備賃金	0	148,750	174,900	56,481	1,781	381,912
その他の納付金	0	59,500	79,500	46,962	3,654	189,616
手数料	7,953	598	18,275	5,309	32	32,167
寄付金	0	3,832	2,797	623	720	7,972
補助金	1,000	76,306	143,379	199,201	16,673	436,559
資産運用収入	58,015	1,137	3,698	188	0	63,038
事業収入	0	2,640	100	3,760	5,610	12,110
雑収入	425	14,890	77,132	144	0	92,591
附属収入合計	67,393	691,933	1,057,409	479,155	48,649	2,345,540
基本金組入額	△301,031	△25,684	△70,422	46,761	△416	△350,792
第1号基本金	△300,933	△25,684	△20,422	46,761	△416	△300,694
第2号基本金	0	0	△50,000	0	0	△50,000
第3号基本金	△98	0	0	0	0	△98
消費収入の部合計	△233,638	666,249	986,987	525,917	49,233	1,994,748

(単位:千円)

科 目	学園本部	大 学	短 大	高 校	幼稚園	合 計
消費支出の部						
人件費	23,825	608,201	645,261	335,313	32,505	1,645,105
教員人件費	0	433,367	428,725	303,322	32,495	1,197,909
職員人件費	22,237	167,749	150,201	30,601	10	370,798
役員報酬	810	0	0	0	0	810
退職金	350	7,085	56,335	0	0	73,770
退職給与引当金繰入額	428	0	0	1,380	0	1,818
教育研究経費	1,402	288,919	236,189	153,503	17,110	695,123
管理経費	47,880	22,746	41,527	10,462	1,158	123,793
借入金等利息	0	4,418	1,206	2,750	0	8,374
資産処分差額	0	553	2,253	7,207	44	10,057
消費支出の部合計	73,107	922,637	926,436	509,255	50,817	2,482,452
当年度消費収入支出超過額	△308,745	△256,388	60,551	16,662	△1,584	△487,704
前年度繰越消費収入超過額	-	-	-	-	-	344,983
翌年度繰越消費支出超過額	-	-	-	-	-	△142,721

富山国際大学

平成21年4月開設をめざして、子ども育成学部の開設準備が順調に進んでいます。文科省と厚労省への5種類の申請手続きは、9月末までにすべて終わり、順調に行けば、10月末には文科省の学部設置認可が下りる見込みです。呉羽キャンパスでの7階建て新校舎建設工事も順調で、10月中旬現在、4階部分まで組み上がろうとしています。一般に新設学部の第1回入試は苦戦を強いられるのが通例ですが、地元受験生を中心に、周知と進学相談会への勧誘をはじめ、出願への働きかけにより一層力を入れています。

子ども育成学部開設準備、順調

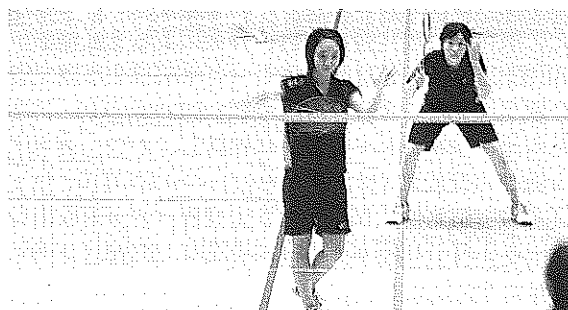


富山短期大学

8月5日～9日の期間、東京都近郊を会場として、90短大(6種目、選手約3,000人)が参加し、第43回全国私立短期大学体育大会が開催され、連日の猛暑の中、熱戦が繰り広げられました。

本学からは男女バスケットボール部、テニス部、バドミントン部が出場し、特にバドミントン部は前年に引き続き、団体戦で見事ベスト8に入る大活躍をしました。また男子バスケットボール部は見事1回戦を突破しました。女子バスケットボール部、テニス部は健闘むなしくいずれも1回戦惜敗でした。参加した学生達は大変貴重な体験をし、有意義な時間を過ごしました。

第43回全国私立短期大学体育大会出場



参加した学生達は大変貴重な体験をし、有意義な時間を過ごしました。

富山国際大学付属高校

「EARTH - KOKUSAI 太陽のように輝く笑顔」第19回文化祭開催

9月12日(金)地球環境問題と日常の身近な課題を考え取り組んだ文化祭、国際生の笑顔が輝きました。オープニングは、『若い翼は』の合唱、ステージ発表では、吹奏楽部やバトン部の華麗な演奏、演技。今年は、生徒会企画としてホロコースト記念資料センター代表の石岡史子さんによる『ハンナのかばん』と題した講演を聴き、戦争の悲惨さと平和の尊さに思いを馳せました。展示部門は、各クラスのテーマ作品、文化部や委員会の作品発表。リニューアルした中庭の模擬店也大盛況で、みどり幼稚園児と高校生の交流もほほえましい限りでした。



みどり幼稚園

みどりのしぜんであそびた～いかい?!

9月6日(土)、呉羽青少年自然の家で、「みどりのしぜんであそびた～いかい?」が開催され、幼稚園の親子約180名が参加しました。

企画運営全てを「みどり幼稚園父親の会」が行い、オリエンテーリングや竹とんぼづくり、流しソーメン、ザリガニ釣り、池遊びなど、盛りだくさんの楽しい一日を過ごしました。

「父親の会」も発足3年目を迎え、お父さんたちが積極的に子どもと関わるようになったと同時に、家族間の交流も深まりました。育児への父親の参加が叫ばれる中、県内の幼稚園でも先進的な取り組みとして注目されるようになり、これからの取り組みが期待されます。

